

芦安小中学校 学校関係者評価書(後期)

令和7年2月5日(水)

芦安中学校区学校運営協議会作成

第2回芦安地区学校関係者評価委員会(第3回芦安中学校区学校運営協議会)

実施日:令和7年2月4日(火)

会場:南アルプス市立芦安中学校 多目的室

〈芦安中学校区学校運営協議会委員〉

会長 清水 実 (芦安子を守る会会長)
副会長 栗原 英子(芦安小中学校PTA副会長)
委員 伊東 隆雅(芦安地区保護司 夜叉神太鼓保存会会長)
委員 功刀 秀樹(南アルプス市みんなで支える芦安協議会代表)
委員 倉園 光代(主任児童委員)
委員 塚原 利幸(芦安窓口サービスセンター長)
委員 内藤 薫(育成会会長)
委員 小林 雅人(元芦安中学校・校長)
委員 名取 大介(学校応援団コーディネーター)
委員 堀内 幸江(芦安小中学校PTA会長)

〈学校職員〉

小学校 根津 盛吾(芦安小校長)
齋藤 知美(芦安小教頭)
中学校 大石 浩雄(芦安中校長 芦安中学校区学校運営協議会委員)
深澤 和博(芦安中教頭)

〈助言者〉

南アルプス市教育委員会 内藤 共哉(学校教育課指導監)

1. 学校側から報告・提案された内容

- ① 学校・児童生徒の様子について
- ② 教職員自己評価・児童生徒アンケート・保護者アンケート(学校評価)の結果について
- ③ 今後の学校経営・学校運営(令和7年度)について

2. 検討・承認していただいた主な内容

- ① 令和7年度・芦安小中学校・学校経営方針について
- ② 令和7年度・学校いじめ基本方針について
- ③ 災害(自然災害等)への対応・年間計画について

3. 学校への意見・要望・感想等<小中>

【学校経営・学校運営】

- ・生徒に寄り添った指導や声掛けはもっとやっていただきたい。また、生徒が地域に関心をもつような指導・助言等をお願いしたい。
- ・持続可能な学校運営は大切な課題であり、教育活動の見直し・改善は絶えずしていく必要がある。その際、職員だけでなく、児童生徒の負担も考えていきたい。
- ・兼務があり、対応しきれないことがあるという記述を目にし、そもそも、欠員であるため、外から見ていても予想はついていました。しかし、この状況であるならば「対応しない」という選択をするべきであって、欠員をカバーするのではなく、やらなくてよいことはどんどん止めてもよいのではないかと思う。
- ・個人情報管理については、全員がA評価の認識でそろっていることが望ましいと思います。
- ・先生方が少人数で課題に取り組みながら、改善・改革にトライされている様子がうかがえます。
- ・学校側の目指したい形についていける生徒があまりいなくて、先生方と生徒の間に信頼関係が築けていないと思います。
- ・現状のレベルをよく観察し、そこからどんな学校をつくり上げていくか、運営の方向性を話し合ってもらいたいです。
- ・学校運営の改善点(課題点)について、学校評価にも盛り込んで、さらなる改善に努めてほしい。また、評価項目が多すぎるので、項目を精選して評価することも考えてほしい。
- ・自然災害に関わって、芦安地区外から通学している子どもたちが多いため、備蓄品の確認が必要である。

【学習指導】

- ・ICT教育は子どもたちの好奇心や理解度などの向上にはもってこいだと思います。学年ごと、低学年・高学年、あるいは小学校全体・中学校全体、または小中全体や地域を参加させた参加型のICT教育もしていただきたい。
- ・振り返りが重要だと記してありましたが、重要なのは子どもたちが自分の理想像を明確にできているかだと思います。自分の理想に向かっていくことで、主体的に振り返りをするし、主体的に学習するのではないのでしょうか。理想的な自分が見えない状況で振り返りをしても、それはただ不足に注視してしまい、やる気や主体性を欠如させてしまうことだと思います。
- ・ICTの活用はネガティブな対策に神経を使われていると思いますが、同時に、自由で大胆な

発想も大切にして、楽しい指導の研究を進めていただきたいと思います。一方で、「書く活動」の効果も改めてしっかり伝えていただきたいと思います。

- ・各教科で一人の先生しかいない状況で、若い先生方が育つ環境ではなく、さらに仕事量も増えているようなので、生徒への学習指導に余力がないのかなと感じています。

【生徒指導】

- ・学習指導とは何が違うのでしょうか。自由記述がないということは、具体的評価項目が間違っているのではないかと考えないのでしょうか？
- ・いろいろと対応が必要なことが多い様子を伝え聞いていますが、先生方みなさん、笑顔で活動されていて感謝しています。
- ・配慮が必要な生徒の割合が高くなっている現状で、先生方の負担が大きくなっており、教育水準の軸がズレているように感じます。平等を目指すことは無理だと割り切り、個々への対応と不公平感を薄めること、一斉指導を行う場面とおこなわない場面を全体で統一してほしいです。

【保護者・地域との連携】

- ・地域の行事やイベント等への参加を子どもたちだけでなく保護者も一緒に参加し、地域の状況を知ってもらいたい。
- ・農園ボランティアに期待！焼き芋集会は、自前のサツマイモで行いたい。
- ・ホームページをブログにして、毎日の写メを発信したり小さなコメントを書いたりできるようにすればいいと思います。長い文にこだわった写真でなく、ちょっとしたことや日常を発信すればよいと思います。校長先生は、保護者が学校に行くと出迎えてくれて、それだけでコミュニケーションになっています。地域というと難しいかもしれませんが、開放日を具体的に発信を続けるのもよいと思います。
- ・連携をとりすぎても、通常のカリキュラムに影響が出るでしょうし、バランスが難しい課題だと察しますが、使えるものは使って、効果的な関係を展開できるといいですね。
- ・小学校は芦安ママズの皆さんが活躍してくださり、学校や地域との連携がとれているように思います。中学校については、保護者間の関係性も希薄になりがちなので、地域や学校と連携をとること自体が難しいと思います。

【学校の特色ある取組】

- ・ICT教育を活用した中で、学校の状況に即した取組をしていっていただきたいと思います。
- ・「あしちゅうタイム」について、令和7年度から本格的に取り組むとのこと。全校生徒及び職員での取組を今後も継続していくことはとてもよいことだと思う。
- ・この地域で今の状況で、学校が存続していることがすでに特色となっています。お一人お一人が無理なくお仕事ができていれば、それはもうすでに特色となっています。
- ・無理なく、できることを、できる範囲で続けていければいいのではないのでしょうか。

- ・和太鼓は存続していくための各方面からのバックアップ強化が必要かと思います。地域の皆さんが協力しやすいような形をつくと、よりよいと思います。
- ・全校登山は中学校全体が「緩い教育」である現状を考えると、南アルプスの山々はレベルが高すぎると思います。山梨百名山の中からレベルにあった山に変更した取組を考えてもよいと思います。

【その他】

- ・地域との連携を行うためにも、もっと地域の事業などへ子どもたちや保護者を参加するよう促していただきたい。
- ・芦安らしいなどという言葉をよく聞きますが、人を増やそう、環境を変えようとするのではなく、一人一人ができることをちゃんとやる。それだけでよいと思います。あれもこれもと考え、苦しむのではなく、できることをちゃんとやるだけで、子どもたちはちゃんと大人の背中を見ていると思います。そして、健全に勝手に成長してくれると思います。
- ・後期に、課題が改善されているものが多く、素晴らしいと思います。
- ・少人数(先生方)校の業務の多さの中、先生方の心身の健康を大切に、児童生徒に楽しんでいる大人のモデルを見せてあげてください。
- ・保護者も生徒も、カラーの強い学校で、かつ、少人数ゆえに、生徒たちは一律教育に慣れていないために、先生方は他校とは違う大変さが多いかと思います。先生方には、共有すべき情報の徹底はもちろんですが、少人数だからこそできる独自性の高い教育を、各々が伸び伸びとできる環境のある学校であれば、先生方の変さは軽減できるのでは、と思います。

4. 分析・評価

- 前期・後期の学校評価から得られた結果を今後の改善に生かせるように、1つ1つの項目について児童・生徒の実態を踏まえた具体的な手立てを講じながら学校運営の改善に取り組むとともに、学校教育目標の実現に向けてさらに芦安郷育を推し進めていきたい。また、学校評価の評価項目についても、見直しを進めていきたい。
- 児童生徒数が少なく、子どもたち同士の間関係づくりが課題であることを踏まえ、子どもたちとのコミュニケーションや日々の微妙な変化の見取りをより一層大切にしながら、きめ細かい対応をしていきたい。全教職員で全校児童生徒を育てていく。
- 社会生活や対人関係を円滑に進めるために必要なスキルを習得するために、ソーシャルスキルトレーニングを小中一貫して推し進める必要がある。
- いじめアンケート等を生かし、教職員間での情報交換・情報共有を確実に行う。その上で、一人一人の児童生徒に合った支援・指導を行う。その際、SC等の関係機関(警察等)とも連携し、多面的・多角的な支援方法を探していきたい。
- 児童生徒の発達段階・特性に合った学習支援と授業改善に取り組む。また、児童生徒が「分かる」「楽しい」と感じ、主体的に授業に向かえるように、ICT機器等の活用、何を学ぶのか

(めあて)、何を学んだのか(振り返り)が明確になるような指導・支援に取り組んでいきたい。ICT機器の活用と並行して、情報モラル教育の学習も充実させていきたい。

- 宿題の内容や方法等を検討した上で、家庭学習の改善・充実を目指したい。睡眠時間や食事の時間、ゲーム機やSNS等の使用時間も含め、家庭での生活時間の使い方全般を見直す。そして、タブレット端末や読書等を活用した自主的な学習に家庭と連携して取り組み、「主体的な学び」を目指していきたい。
- 学校だよりやホームページ等を活用して、コロナ後の学校の教育活動の様子を保護者・地域に発信していくとともに、保護者・地域に対して教育活動への参観・参加を呼び掛け、教育現場の実態について、学校・保護者・地域で共有していきたい。反対に、保護者や地域の方々の意見を聞く機会も設けていくことも必要である。
- 自然体験活動や小中合同活動、PTA活動や地域との連携活動等の、芦安小中学校の特色ある取組を、今後、さらに工夫しながら活動の幅をより一層広げていきたい。その際、「前例主義」に陥らず、児童生徒の実態に応じて活動の見直し・改善を進めていきたい。また、「芦安ならではの魅力」も打ち出していきたい。
- 芦安地区は、土砂災害地区に指定されている。その他、地震などの災害に備えた備蓄を十分に行っていく必要がある。